

千葉大学大学院園芸学研究科 教育課程編成・実施の方針（博士後期課程）

「自由・自立の精神」を堅持するために

- 「園芸とランドスケープ」に関わる研究者、高等教育指導者や組織統括者としての基本的な倫理、態度、方法論を育むために、環境園芸技術マネジメント、環境園芸アントレプレナー育成科目を専攻共通基盤科目として置く。また、ティーチングフェロー制度やチューター制度をおき、指導的な能力の育成やキャリア教育支援を行う。

「地球規模的な視点からの社会とのかかわりあい」を持つために

- 自律的な研究開発を行うことができ、成果を国際的・学際的に発信できる人材を育成するために、学術の国際展開あるいはマネジメントに関わるセミナー型科目を専攻共通基盤科目として置く。

「専門的な知識・技術・技能」を修得するために

- 「園芸とランドスケープ」に関わる高度な研究開発能力と豊かな学識を持ち新たな知見や価値の創出に貢献できる人材を育成するために、幅広く専門科目を設置し、研究の開拓に必要な科目を自主的に履修させる。

「高い問題解決能力」を育成するために

- 「園芸とランドスケープ」に関わる新たな課題を見出し、新たな知見や価値を創出する高い問題解決能力を育成するために、十分な研究時間を確保し、園芸産学官セミナーやランドスケープ産学官セミナーなどを通じて共同研究の機会を提供し、特別演習によって個別に適切な指導を行う。

「学修成果の厳格な評価」のために

- 学修成果については、事前にシラバス等で提示する各授業目標への到達度によって、厳格かつ公正な評価を行う。授業科目の特性に応じて、以下のような適切な評価方法によって成績評価を行う。
- 講義科目では、試験、レポート、リアクションペーパー等でその達成度を評価する。
- 実験・実習・演習科目では、試験、レポート、口頭発表、実技等でその達成度を評価する。
- 学位論文は、審査基準と審査方法をあらかじめ明示し、それに基づき審査体制を整備したうえで、論文審査および最終試験を厳格かつ公正に行う。